

崔 秋曦 (サイ シュウギ)

中国出身／2018～2019 年度奨学生

上智大学 言語科学研究科 修士課程

2018 年度 (平成 30 年度) から新規奨学生として受け入れられてから、今までの 2 年間で資金面だけではなく、精神面でも常に温かくご支援いただいている坂口国際育英奨学財団及び関係者の皆様に、この場をお借り致しまして御礼申し上げます。

最終レポートは①留学してよかったことと②奨学生期間中にできたこと・将来計画という 2 つの部分に分けて述べさせていただきます。

1. 留学してよかったこと

私は 2014 年 9 月から交換留学生として来日して以来、約 5 年間半経ちました。今までの留学生生活を振り返ってみると、自分自身はいろいろな面で成長してきたと実感しています。

中でも、最も大事なものは、留学を通して思考力、決断力を高めることができるようになった点です。人生では「毎日何を食べるのか」というような小さい決断から、「高校では文系と理系どちらを選ぶべきなのか」というような将来に影響が大きな決断まで、行うべき決断の回数は数えきれません。以前、私はなかなか決断できなかった人間です。来日した後、些細な生活のことから進学、就職など 1 から 10 まですべてのことを自分 1 人で決めるしかありませんし、時々直ちに決断しなければならない場合もあったので、最初は本当に大変苦労しました。しかし、日本で色々な経験をし、様々な背景を持っている人と交流を深め、だんだん自分の価値観を形成し決断力を高めることができました。この変化は一朝一夕ではなく、長時間を経て身に付いた能力だと思います。

留学してよかったことの 2 点目は自分からチャレンジすることができた点です。困難や未経験のことがあるからこそ、それを乗り越えたり、経験したりした後に自分がどれほど強くなれるのかをはじめて知ることができました。1 つ 1 つの難関を乗り越えることができたのは、周りの方々のサポートも不可欠で、自分が諦めずにチャレンジした結果でもあります。

3 点目は日本で多くの日本人と交流することで、日本文化への理解を深めること、日本の方に中国のことを伝えられる点です。日中交流イベントへの参加、中国語教室の立ち上げ等いろいろな場面で日中の架け橋となり、日中相互理解を深めることに貢献できていることを大変うれしく思っております。

細かく思い出してみると、今まで日本留学の 5 年間半は様々なことを経験し、感謝の気持ちでいっぱいです。この素晴らしい思い出はきっと将来のためになるかけがえのない大切な宝だと思います。

2. 奨学金期間中にできたこと・将来計画

奨学金期間中（2018 年 4 月～2020 年 3 月）は非常に有意義に過ごしていたと思います。

まず、坂口国際育英奨学財団及び関係者の皆様による資金面のご支援のおかげで、長時間のアルバイトに時間を割く心配がなくなるとともに、学業・研究に集中できる環境が整い、修士課程の 1 年目ではほぼすべての修了必須単位を取得しました。それに加え、先行研究の概観、修士論文のテーマ選定等に早い段階から取り組んでいたため、修士論文の質問紙調査の事前調査を 2018 年（修士 1 年目）の 12 月に実施できました。その後、修士 2 年目の春学期期間中に、コーパスを用いた調査分析と質問紙調査のデータ収集を無事に行いました。さらに、夏休み中にデータの整理と分析をしたうえで、2019 年 10 月～11 月に修士論文を執筆していました。指導教員からいただいたコメントに基づいて加筆した上で、今年の 1 月 8 日に提出し、27 日の論文審査試験で主査と副査の先生方々に好評をいただきました。私の研究は国立国語研究所で開発されたコーパス『現代日本語書き言葉均衡コーパス（通常版）BCCWJ-NT』を用いた調査とイメージ調査に基づいて、日本語の授受表現「てあげる」「ていただく」の派生的用法の使用を調べた調査研究です。普段日々の生活で、「てあげる」「ていただく」の新しい用法を聞いて疑問が生じたことが研究のきっかけでした。今後、この研究成果を日本語学習者への文法指導に役に立てれば幸いです。

次に、学業・研究以外に、私は大学主催の中国語コミュニケーショングループのリーダーとして 2 年間務めさせていただきました。毎学期異なった日本人学生たちの趣味関心、中国語レベル、学習ニーズに合わせて、中国の流行語や面白いニュースや日中文化対比など様々な内容について交流を深めました。この経験を通して、学部、学年が異なる日本人学生たちと会話を交わすことで、日本と中国の異同、考え方の違いへの理解を深めるとともに、クラスでメンバーたちのマネジメント方法等も学べました。この経験は語学教師になるためには大変有難い経験だと思っています。

また、専攻の学業に囚われず、隙間の時間を活用し、自分から異なった分野の知識を獲得しています。今現在、ファイナンスをはじめ、企業経営理論、生産管理、情報システム、経営法務等様々な領域のことを学んでいます。学習成果としては、日商簿記検定の 2 級と 3 級を取得しています。

今まで修士課程 2 年間の大学院生活を振り返ってみると、私はほぼ入学前の計画通りに目標を達成できており、自分自身もいろいろな面で強くなってきたと感じています。しかし、坂口国際育英奨学財団のご支援がなければ、こうしたすべてのことを成し遂げることはできないと言っても過言ではないと思います。財団の皆様に支えられ、貴重な大学院生活を送ることができたということを決して忘れません。財団の方々に対する感謝の気持ちを常に持ち、今まで学んだことを社会により良い形で還元していきたいと思っています。

末筆ながら、重ねて御礼申し上げますとともに、皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。